

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
2	高熊 真弓 永沢 由佳	高等学校古典探究 古文編 (第一学習社) 完全マスター古典文法 (第一学習社) 常用国語便覧 (浜島書店)
必履修 学校必履修 ○必修選択 ○自由選択		ほか

## ◆学習の目標

- ・言語文化に対する関心を深め、国語を尊重し、その理解力・表現力の向上を図る態度を育てる。
- ・古文に親しむことで、ものの見方・感じ方・考え方を広くしていく。
- ・古文を読む能力をより高いレベルで充実させていく。
- ・大学入試に対応する力を養成するために、確実な知識を身に付け、多くの作品に触れる。

## ◆主な学習内容・方法

- (1) 古語の意味・用法を語源から掘り下げて理解する。
- (2) 文章の構成や展開に即して主題や要旨を捉える。
- (3) 助動詞や助詞・敬語法の理解を一層深め、表現に即してその持つ意味を正確に理解する。
- (4) 文学史の上でそれぞれの作品の持つ意義を理解する。
- (5) 受験問題を実際に解き、解法を学ぶ。

## ◆到達目標と評価の観点

〔観点別評価の評価規準〕

## ○知識・技能

- ・古文を理解するための語彙力を充実させることができる。
- ・文章の中で助動詞や助詞・敬語法を正確に理解することができる。
- ・文学史の流れを理解することができる。

## ○思考・判断・表現

- ・複雑な文章の文脈を正しく把握する力を身に付けることができる。
- ・一定の時間の中で大意を理解し、問題に対処する力を身に付けることができる。

## ○主体的に学習に取り組む態度

- ・授業の予習復習及び問題演習、授業内の質疑応答等に対し主体的に臨むことができる。

## ◆年間予定授業時間

予定時数	70 時間	1 学期 ( 26 時間) 2 学期 ( 28 時間) 3 学期 ( 16 時間)
------	-------	---

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

- ・必ず教科書の本文を音読し、分からない箇所については語句を調べ、文法的な構造を考えておくこと。その際、辞書や文法の補助教材を活用し、自分自身の力で分かること・分からないことの区別を付けておくことが大切である。
- ・事前課題への取り組みは必須である。それを前提に授業を進める。
- ・授業で取り上げた文法事項等は補助教材で復習しておくこと。

◆授業計画

各クラスの生徒の実態に合わせ、教材の順序や時数を変更する場合がある。

学期	月	単元・教材等	時間	学習の内容	学習到達目標
1	4	『大鏡』 菅原道真 伊周・隆家 道長	1 5	・歴史物語の虚構性と表現上の特徴を理解する。 ・それぞれの文章のテーマを理解し、筆者の主張を把握する。 ・文章内に出てくる歌の特徴を知り、特殊な用語を理解する。	・道長を賛美するという面があるため、道長系の人物が美化されることを理解できる。
	5				・物語特有の、ストーリーの展開について理解できる。
	6	『源氏物語』 桐壺 夕顔 若紫	8	・「源氏物語」の全体像を既出部分を踏まえて理解する。 ・特に敬語法を中心に、基本的な文法事項を復習する。	・基本語句、助動詞の働き、敬語の基本を身に付けられる。
	7	入試問題演習	3	・歌物語の特徴を多くの章段を読むことで理解し、源氏物語の特徴を理解する。	・和歌が表現の中心にある事を理解できる。 ・物語全体の登場人物の行動と心理を理解できる。
2	8	『源氏物語』 須磨 明石 玉鬘 蛍 野分 御法 東屋 浮舟 夢の浮橋	2 2	・和歌について修辞法を理解し解釈の仕方を学ぶ。 ・源氏の人間関係を把握する。 ・文章の複雑な文脈を理解し登場人物の関係・心情等を深く読みとる。 ・第三部の世界の特徴把握	・敬語を手がかりに、主語を判断することができる。
	9				・助詞の働きを理解できる。
	10				・どのような心情で和歌が詠まれているのか。情景描写を把握できる。
	11	入試問題演習	6	・入試問題を解くことにより読解力を深め、文法事項を確認する。	
	12				
3	1	入試問題演習	1 6	・問題演習を通じて、様々なジャンルの文章に多く触れ、これまで身に付けた力のさらなる充実を目指す。 ・文学史的な流れを理解する	・問題演習の場合 大まかな内容、語句の文法的識別、基本古語の意味を理解できる。
	2				・近世の文章による美意識の変遷や享受層の変化に伴う文体の変化を理解できる。
	3				